

有限会社 三菜寿



1 現在の経営内容等

(1) 経営理念, キャッチフレーズ等

四季とともに、その季節に最も合う農作物を天候の力を生かしながらかつていくことを経営の理念としている。

(2) 栽培技術の特長

施設トマト栽培では水耕栽培により作業の省力化、栽培の効率性を重視している。トマトの植え付け株数や栽培体系を見直したことで生まれた施設の空きを有効に利用するために、レタスや発芽にんにくの栽培にも取り組みは始めている。トマトの栽培施設内は乾燥しやすいので、通路に散水するなどして湿度には特に注意を払っている。露地野菜では有機質肥料を投入するなど土作りに力を入れている。マルチを使用しており除草剤は使っていない。また、肥料を多く必要とするインゲン栽培の後にほうれんそうを減肥して栽培する等、肥培管理の面から露地での年間作付品目も工夫している。

(3) 販売の特長

直売所への出荷は少なく、市場出荷を主体としている。露地野菜は北海道の市場から東京の市場まで広域的に出荷している。

(4) 経営組織の特長

ハローワークを活用し、若者から高齢者まで多様な人材を計画的に確保している。日々の管理作業は女性が主体となって行っており、女性の力を生かした経営

を行っている点が当法人の大きな特長である。新たに取り組み始めたレタスや発芽にんにく栽培では、トマト栽培と比べて軽労働であることから高齢者でも働きやすい場となっている。

(5) 労務管理の特長

従業員各々の状況に応じた勤務態勢をとっている。また、食事会等の開催により従業員の親睦を充実させている。一人一人が積極的・主体的に経営に参加できるような雰囲気作りをしている。

(6) 経営管理の特長

栽培管理作業は部門担当制にはせず、従業員皆で一斉に同じ作業を行っている。これによりメリハリのある作業がてき、また従業員の技術力の高位平準化が可能となっている。

(7) その他の特長

地域を非常に大切に考えている。地域の方々を雇用し、地域の田畑で農作物を作り、地域の人に農産物を買ってもらおうという、地域との多様な関わりをなかで経営を続けている。土作りのための堆肥は地域の畜産農家のものを活用している。また、地元小学校の総合学習でのトマト栽培施設見学を毎年受け入れており、食育にも積極的に貢献している。

2 これまでの経過

(1) 法人化するまでの特徴的な歩み

水田農業地帯で高い収益性のある園芸作（トマト）

経営のプロフィール

経営概要

- ・施設野菜トマト（1.2ha）
- ・露地野菜（夏：インゲン2ha、冬：寒締めほうれんそう2.5ha・雪菜0.5ha）
- ・育苗ハウスでレタス、発芽にんにくの栽培

主な施設・機械の保有

- ・鉄骨ハウス（12,000㎡）
- ・トラクタ3台（25ps, 27ps, 32ps）
- ・管理機1台
- ・播種機（真空播種機・マルチシーダー）
- ・ライムソフー
- ・ブロードキャスター

構成員等

構成員5名、常時雇用12名、パート8名（季節による）

法人設立年月日

平成7年11月7日

認定農業者認定年月日

平成23年6月17日

資本金

330万円

販売額

5,000万円（平成25年度）

役員名

代表取締役：中澤 宏

主な過去の導入事業及び農業制度資金活用

- ・地域農業基盤確立農業構造改善事業
- ・スーパーL資金
- ・農業改良資金

を主体とした農業モデルを作り上げることを目標にして、法人としての責任と人材確保などのメリット追求を目指す会社を立ち上げた。

(2) 法人化の動機や法人設立時の特徴的経過、法人化後の変化

出資者3名で平成7年11月に法人を設立し、事業を活用してトマトの水耕栽培施設を建てた。初期の頃経営に行き詰まることもあったが、旧豊里町・農協・普及センター等による経営確立指導会や宮城県農業会議による経営コンサルティング等により経営を見直すことで、組織を継続・発展させることができた。

3 今後に向けて

(1) 解決すべき課題と現在検討中(取組中)の対処方策

法人としてのメリットを生かすために組織全体の規模拡大、特に露地野菜部門の拡大を考えている。露地野菜部門を独立して設け、さらに農地中間管理事業等も活用しながら作付面積を拡大したいと考えている。

(2) 今後に向けての経営戦略

当法人では従業員が楽しく長く働ける会社をつくることを目標としている。この地域としての雇用スタイルや経営と人の暮らしを創ることも考え、70代の人も雇用している。経費削減に焦点を当て利益の高い経営、長続きする経営を目指している。

（調査：登米農業改良普及センター）

略図



有限会社 三菜寿

〒987-0371 登米市豊里町十丁田295番地
TEL 0225-76-5789 (FAX兼用)
E-mail sanasu@atlus.plala.or.jp

視察受入条件

原則受け入れていない